



研修医の手記

梶野 公平



初めまして。今年3月に札幌医科大学を卒業し、4月から市立釧路総合病院で勤務しております、梶野公平と申します。趣味はリアル脱出ゲームとディズニー旅行です。

私は、札幌に生まれ、幼少期を千葉県、学童期をタイで過ごし、中学校から札幌に戻ってまいりました。旅行で釧路を訪れたことは幾度ありましたが、生活をするのは今年が初めてです。2年ほど前、病院見学で初めて市立釧路総合病院を訪れ、スタッフの皆様の温かな雰囲気に惹かれました。昨年、3週間ほど実習でお世話になり、病院だけでなく、釧路という地域にも魅力を感じ、当院での研修を

志望いたしました。釧路での生活も3か月経ち、医師としての力量不足を感じながらも、様々なおいしい食べ物や自然豊かな土地を満喫しております。私が3年目以降、道内のどの地域で医師をしているのかはまだわかりませんが、まずは2年間の研修生活の中で、釧路をはじめ道東地域について医療的観点からだけでなく、一市民としてもより多くのことを学びたいと考えております。

至らぬ点も数多くございますが、出来ることをひとつずつ着実に増やしていき、初期研修が終わる2年後を見据えて、成長していけたらと考えております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



エキスパート紹介 Part.25

皆さま こんにちは。感染管理認定看護師の立花みどりです。

私は2022年感染管理認定看護師の資格を取得しました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い医療現場のひっ迫が生じた2020年、今自分にできることは何かを考え感染管理認定看護師教育機関の受験を決意しました。感染管理認定看護師教育研修では、苦労を共にした多くの仲間との出会いがあり、現在も各組織の情報を共有しています。

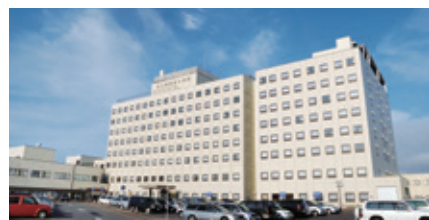
私は、感染管理認定看護師教育機関を卒業後、新型コロナウイルス感染症病棟で勤務し、2023年4月からは院内感染対策室で専従として勤務しています。

感染管理認定看護師の役割は、疫学、微生物学、感染症学、消毒と滅菌、関係法規などに関する専門的知識を基盤に、施設の状況に合った効果的な感染管理プログラムを構築し、病院に関わるすべての人を感染から守ることにあります。自施設が地域から求められる役割を果たすために、感染管理組織の一員として医師、薬剤師、臨床検査技師など多職種と共同しながら、感染徴候の早期感知と感染拡大防止に向けた対策を実施しています。

管理職でもある私の使命は、専門的知識を活かしながら他部門との調整役になること、第2種感染症指定医療機関として地域からの要請に対応することだと考えています。

まだまだ微力ではありますが、感染管理組織のチームの一員として、患者の状況に適した医療を提供できるように尽力したいと考えています。

感染管理認定看護師 立花 みどり



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511



ポストコロナを見据えた地域連携



市立釧路総合病院 院長

森田 研

新型コロナウイルス感染症の直前に検討された地域医療構想は、その必要性や課題がこの3年間に明確化されました。少子化に伴う生産年齢人口の減少により、高齢社会を支える介護・医療従事者の相対的減少に直面しております。釧路地域の特徴は職種マンパワーのアンバランスと開業医の少なさですが、人員不足を他地域からの応援で補うことは、都市部から距離のある当地域では難しいのが現状です。地域ごとに人口構造の変化の度合いが異なるため全国どこにも同じ環境の地域は存在しません。従って他地域の真似をするだけでは不十分です。釧路地域の課題は他地域を参考にしつつも、自分たちにしかわからない地域の実情を考慮した対応が求められます。パンデミック発生時だけでなく、現在問題になっている精神医療・周産期医療の担い手の高齢化・マンパワー不足についても地域全体で協力して解決策を検討する必要があります。

また、地域の災害拠点病院である当院の新棟建設計画は、南海トラフ地震による災害を想定し、自治体・防災の専門家・行政機関と十分な意見交換をしながら進めていかねばなりません。設立母体や組織の枠を越えた相互協力・情報交換が当地域でも今後重要となってきます。医療従事者や関連職員のマンパワーを確保するためにデジタル化による情報共有を進めることも必要です。

保健福祉行政や介護医療を含めた地域連携の情報共有を今後いっそう進めていき、パンデミックで体験した知識・記憶が劣化しないうちに、強固な医療連携を地域全体で築いていくために皆様のさらなるご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

就任のご挨拶

市立釧路総合病院 事務部長 藤岡 佳世



令和5年4月1日付で、事務部長となりました藤岡です。

これまでの病院経験は、平成26年4月～平成30年3月まで総務課、令和2年5月～令和5年3月まで医療管理課で、通算6年11か月となります。

医療管理課長として異動してきた際は、ちょうど新型コロナウイルス感染症が拡大してきた時期にあたり、その後、当院では令和4年11月100名以上の感染者が確認された大規模クラスターとなりましたが、院内職員が一丸となって約1か月で収束するなど、振り返ると事務方としてコロナ対応に追われる日々だったと感じております。

さて、新棟建設につきましては、令和5年3月に新棟建設等事業設計・施工一括発注に伴う公募型プロポーザルの優先交渉権者が決定し、令和5年6月末で契約締結となりました。

今後、実施設計がスタートし、その後工事に着手、今のところ令和9年新棟開院の予定となっております。この地域で高度急性期医療を支える地域センター病院として、待ち望まれていた新棟開院に向けて、関係各所と連携を取りながら、着実に押し進めていけるよう、取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日より5類に移行されましたが、まだまだ予断は許さない状況にあります。

しかしながら、国内の対応移行にあわせ、当院も面会制限緩和など、感染対策には万全を期して、徐々に進めているところであります。

最後に、当院を訪れる多くの患者様が、日々安心して治療に望まれる様、病院で働く多くの仲間とともに院内の環境整備に全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医療連携相談室のご紹介

ユニフォームが変わります！

市立釧路総合病院医療連携相談室のソーシャルワーカーのユニフォームが一新します！
今までは長白衣でしたが、デザイン・機能性を含め大変着心地のいいスクラブと変わります。
市立釧路総合病院へお越しの際は、ぜひソーシャルワーカーのユニフォームにも注目してみてください！



新人紹介

医療ソーシャルワーカー 島谷 凪海

この度、4月より医療連携相談室に所属することとなりました、**島谷 凪海**と申します。

社会人1年目、ソーシャルワーカーとしても1年目の私ですが、先輩方から日々愛のあるご指導をいただき、多くのことを学ばせていただいております。

まだまだ未熟者ですが、これから様々な知識や経験、自己研鑽を積み重ね、患者さんやそのご家族の方に安心してお話してもらえるような、信頼されるソーシャルワーカーを目指して精進して参ります。よろしくお願いいたします。



新規放射線治療装置導入のご案内とご紹介

放射線治療科 部長 小野寺 俊輔



昨年度末（2023年3月）、当院放射線治療科に新しい放射線治療装置（Varian社 TrueBeam）が導入されました。今までの治療装置は、耐用年数を超え、満身創痍の中、退役しました。新しい装置は届きましたが、設置直後は赤ちゃんのような状態であり、正常に動作するよう、この4か月、当院放射線技師（医学物理士と品質管理士という専門職）と納入業者で調整し、ようやく7月18日（火）から稼働開始となりました。

この半年間については、地域の皆様にご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りしまして、お詫びとご対応頂いた関係各位に御礼申し上げます。

今回の新しい機器により、今まで困難であった複数個の脳転移へ同時に定位放射線治療を行う機能（HyperArc）や、治療中の体内マーカーの追跡も可能となりました。これまでの呼吸同期システムも利用可能となっています。また、体表のサーモグラフィと透視画像による位置調整システム（Exac Trac Dynamic）という道内初のシステムも導入され、毎日の治療開始時の位置調整や照射中の患者位置管理をより正確にかつ安全にできるようになりました。これには6軸寝台の導入も大きな役割を担っています。6軸（X、Y、Z軸＋各軸の回転）により、患者さん本人を技師が回したりしなくても遠隔操作で微調整が可能となりました。

当科では、道東唯一の小線源治療システム（RALS）と合わせて、これまで以上に安全で正確な放射線治療を根釧地域、ひいては道東全域にご提供して参ります。是非、ご利用についてお気軽にお問い合わせください。

